

社会資本総合整備計画 防災・安全交付金

平成30年03月16日

計画の名称	中心市街地のにぎわいの再生と安全安心な歩行空間を確保するためのまちづくり（防災・安全）												
計画の期間	平成27年度～平成30年度（4年間）										重点配分対象の該当	○	
交付対象	幸田町												
計画の目標	幸田駅前一体は、かつては町の中心市街地として賑わいをみせたが、現在は、幹線道路に歩道がないなど都市基盤は脆弱であり、老朽化した建物が密集する災害に弱い地域である。そのため、J R幸田駅前の2.9haで土地区画整理事業を行うことにより、幸田駅へのアクセスや通学路である幹線道路への歩道設置・無電柱化と、区画道路へのグリーンベルト設置により、安全で安心した道路（歩行空間）を整備する。また、土地利用としては、商業系利用を推進することにより中心市街地のにぎわいの再生へと繋げる。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	153	A	130	B	0	C	23	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）	15.03	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H27当初)	中間目標値	最終目標値 (H30末)
1	幸田駅前の交差点における歩行者、自転車の通行量を増加させる 幸田駅前の交差点の歩行者と自転車の通行量について調査する	1858人/日	人/日	1890人/日
2	幸田駅前土地区画整理事業地内の通学路安全対策率を増加させる 幸田駅前土地区画整理事業地内の通学路の安全対策率を調査する 通学路安全対策率＝歩道整備又はグリーンベルト整備延長/通学路延長（425m）	0%	%	100%
3	幸田駅前土地区画整理事業地内の商業土地利用面積を増加させる 幸田駅前土地区画整理事業地内の商業土地利用状況について調査する 商業土地利用面積の増加＝商業土地利用の敷地面積/区画整理区域内の宅地面積	16%	%	25%
4	幸田駅前土地区画整理事業地内のイベント出店数を増加させる 幸田駅前土地区画整理事業地内のイベント出店数を調査する イベント出店数＝地区内道路（区画道路）で毎月開催（5と10のつく日）の市の出店数	1店	店	3店

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H27	H28	H29	H30	H31			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
市街地整備事業	A13-001	市街地	一般	幸田町	直接	幸田町	—	—	幸田駅前土地区画整理事業（1-A-1）	都市再生区画整理 A=2.9ha	幸田町	■	■	■			130	—	
												小計						130	
											合計						130		

C 効果促進事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H27	H28	H29	H30	H31			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
市街地整備事業	C13-001	市街地	一般	幸田町	直接	幸田町	—	—	区画道路歩行空間整備事業 (1-C-1)	グリーンベルト L=440m	幸田町				■		4	—	
		幸田駅前土地区画整理事業と一体的に生活道路である区画道路へグリーンベルトを設置することにより、市街地の交通面での安全性を向上させ、安全安心な歩行空間を確保する																	
	C13-002	市街地	一般	幸田町	直接	幸田町	—	—	街路灯整備事業 (1-C-2)	街路灯20箇所	幸田町				■		19	—	
		幸田駅前土地区画整理事業により幹線道路は無電柱化されるため、安全面に加え中心市街地の景観も考慮し街路灯を整備することで賑わいと安全安心な歩行空間を確保する																	
											小計						23		
											合計						23		

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	H27	H28	H29	H30	
配分額 (a)	15	6	1	2	
計画別流用増△減額 (b)	0	0	0	0	
交付額 (c=a+b)	15	6	1	2	
前年度からの繰越額 (d)	0	15	0	0	
支払済額 (e)	0	21	1	2	
翌年度繰越額 (f)	15	0	0	0	
うち未契約繰越額(g)	15	0	0	0	
不用額 (h = c+d- e- f)	0	0	0	0	
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d)) %	100	0	0	0	
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由	年度途中に国の補正予算を受けた工事のため、年度内完了ができず次年度へ繰り越したため				

(参考図面)



